

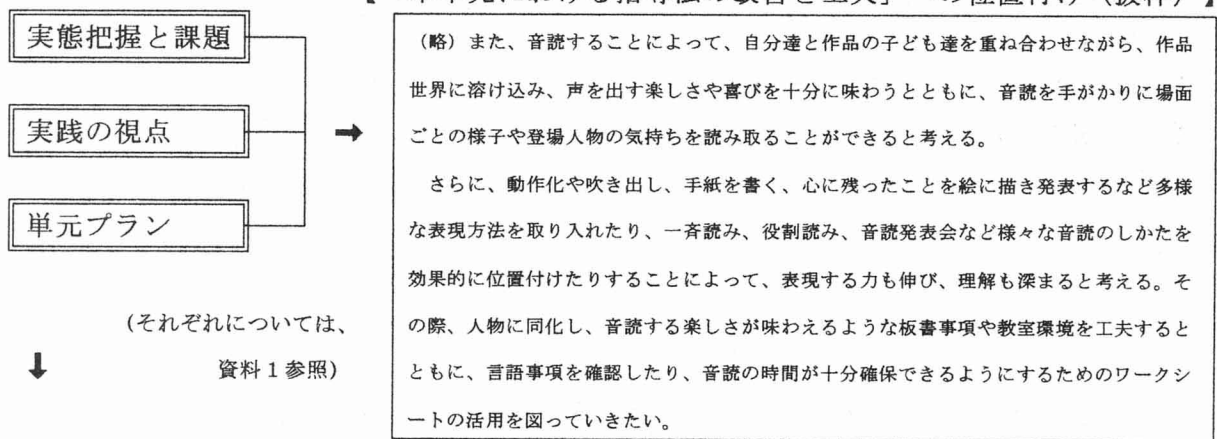
(2) 基礎学力定着のための方策の位置付け

本校では、指導案の中に、「本単元における指導法の改善と工夫」という項目を起こしている。「指導法の改善と工夫」は、本校の研究主題でもあるわけだが、教材観、児童観、指導観を含め、授業構築のための様々な検討（(1)及び資料1参照）の上に立って、本単元での指導法の改善と工夫について述べ基礎学力の定着を図るための視点を明確にしていこうとするものである。

また、指導過程には、「学力向上に関わる手だて」の項目を起こし、本時での具体的な手だてを位置付けている。このことによって、「どこで、どのように、どのような」手だてを講じていくかが明確になった。  
(具体例は、資料2参照)

<資料2・・・学年・単元は資料1と同様>

【「本単元における指導法の改善と工夫」への位置付け（抜粋）】



【「指導過程」への位置付け（抜粋）】

学習活動・内容	○支援 ○評価	●学力向上に関わる手だて
2. 本時の学習場面を音読する。	○声の大小や間を自分で考えられる児童には、音読記号をつけるよう助言する。	●個に応じた支援を行う。 ●音読記号を活用する。
3. くじらぐもと子ども達のやりとりの様子を読み取る。 (1) 会話の様子 ・会話文の確認 ・「～も」の使い方	○「よしきた。」の言葉に着目させ、(以下略) ○「～も」の使い方が理解できるように、ワークシートで押さえる。 ○位置関係を明らかにすることによって、長音の必然性についてとらえさせ	●音読を効果的に取り入れる。 ●ワークシートを活用する。 ●口の開け方を図示する。

【算数科も同様に位置付ける】

○支援 ○評価 ・役割	●学力向上に関わる手だて
T 2	●導入の工夫 ●身近な事からの問題の活用
○身近な事から题意がとらえられるように、学級の記録表を掲示する。	
○こみ具合の学習で習った一方をそろえる方法を思い出させる。	●ワークシートの活用

5年 単元量あたりの大きさ（抜粋）